イランの繊維産業現状

Textile Industry in Iran

Ali Akbar Merati

1. イランの経済

イランの産業は、石油、石油化学製品、繊維、セメント及び建築材、食品などです。購買力平価(PPP, purchasing power parity)換算値によると、2004年のイラン経済指標は次の通りである。国内総生産額は5167億米ドルで世界第20位、国民一人当たりの国内総生産額は7700米ドル、産業の生産成長率(石油産業を除き)は3.5%、経済成長率は6.3% 世界第41位、失業率は11.2% 世界第105位、インフレ率は15.5%である。国内総生産額のうち農業は11.2%、産業及び鉱業は40.9%、サービス業は48.7%である。輸出額は387.9億米ドルで世界第40位で、輸出物は、石油(全体の80%)、石油化学製品、絨毯、果物やナツなどであり、輸出先は日本18.4%、中国9.7%、イタリア6%、韓国5.4%などである。輸入額は313億米ドルで世界第44位である。輸入先はドイツ12.8%、フランス8.3%、イタリア7.7%、中国7.2%などである¹⁾。2004年には石油以外の輸出量は1580万トン、輸出額は63、836億米ドルである。前年度に比べ輸出量は11.1%、総額は14.2%増になります。そのうち、工業製品及び鉱産物の輸出額は45、038億米ドル、手作品と合わせて45、8億米ドルになります。前年度に比べて輸出量は13.6%、総額は30.6%増になります。

日本に輸出している主なものとしては、原油が挙げられる。2004年、日本が必要とする原油の、実に15パーセントがイランから輸入されている。イランにとって日本は主な貿易相手国となっている。イラン政府は競争力を高め外国資本を導入するため、関税の障壁を取り除き、各種の市場規制経済に対する規制を緩和した。それゆえ、日本政府、特に経済省からの支援また日本企業のイラン市場への益々の参加を期待しているところである。これからは、両国の経済協力はエネルギー、パワープラント、繊維やその他の産業にまで発展していくだろう。

イランの第四次5ヵ年計画(2005年～2009年)によると、第四次経済発展計画は、世界経済との相互作用を受けて、以下の事柄が強調されている。①長期的・安定的な雇用創出の増加、②生活水準や世界経済におけるイランの地位の向上③国際経済において競争にしうるダイナミックな産業構造の基盤を作ること④産業化の拡大⑤ヒューマンリソースの発展。この計画の期間においては、8.1パーセントの年間成長率が見込まれており、この数字を達成するためには3870億ドルの投資が必要とされている。約3560億ドルが国内の資本により、310億ドルが海外からの投資による²⁾。

2. 石油部門の重要性

イランの経済的な豊かさは主に石油からである。石油の埋蔵量は1325億バレルで世界第四、天然ガスの埋蔵量は27.5兆立方メートルで世界第二位である。世界の石油埋蔵量の約11.6%、天然ガス埋蔵量の約15%はイランにある³⁾。1950年以来、石油収入はイラン経済の発展に重要な役割を果たしてきた。つまり石油収入はイラン経済に多大な影響を及ぼしている。80年代から(1981～1999年)約20年間逆オイルショックが起こり、非OPECの地域のシェア上昇に伴い原油価格は20米ドルを切った。石油収入に依存しているイランのような国の国家収入が落込み、一人当たりの実質石油輸出額が、高い人口増加率と結びついて、低下することを意味するものである。長期にわたり逆オイルショックやイラン-イラク戦争の長期化などはイランの産業構造に大きな打撃を与えた。繊維産業も機械や原料などの輸入のために国の石油所得(外貨収入)に頼っていたから、近代化や発展が遅れてしまった。アパレルを含む繊維産業はイランにおいて主要な生産力の一角を形成しているが、イランの繊維産業及び教育がどのような現状であるかをここで考えたい。

3. 繊維産業

1901年にイランのテヘランで最初の紡績会社(1200錠)が設立された。第2次大戦期には51の紡績関連の工場(そのうち41工場が綿紡織工場)があった。1960年頃になると、イランの織物産業の工場制工業部門の従事者はおよそ4万人になる。その頃には、合計56万3694紡錠、9533台の織機が装備されていた。それが、70年初めには、紡錠数は90万になり、織機と紡績機は合計1万7000台となる。

メラティ アリ アクバル
岐阜大学工学部機能材料工学科 助手
工学博士
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
Tel: 058-293-2493 Fax: 058-293-2493
E-mail: ali@cc.gifu-u.ac.jp
〈専門〉 Textile Technology Engineering

さらに、80年代初めに紡錘数は140万程度、紡織機は3万5000台へと一本調子で成長していった。当初、イランによる繊維製品輸入は相当な希望であったが、生産能力の拡大とともにしだいに改善され、量ベースではイラン革命以前のかなり早い時期にほぼ輸入代替を達成しえた。ただし、ポリエステル糸やアクリル糸などの合成繊維の生産は遅れ、現在でも輸入に頼っています。近代的な繊維産業の発展の遅れは他国(例えば、隣国トルコやパキスタン等)に比較した場合、イランの繊維物や衣料品の両部門の競争力や輸出余力は限られている。つまり、イランの繊維産業部門では、繊維産業の近代化・機械化、あるいは輸出化の進展は遅く、近隣諸国と較べても低水準となる。現在、繊維産業関連の会社の数は約7800社であり、約45万人がこの産業に働いているが、イランの繊維産業は機械の老化、中国等からの安価輸入品などの問題を抱えている。繊維・織物工業の地理的分布をみると、テヘラン、イスファハン、ヤズド等の順に繊維産業が盛んな地域である(表1)。例えばヤズドについてですが、ヤズド州はイランを構成する30州の一つであり、内陸の乾燥地帯に位置している(図2)。現在のヤズド州の人口は、イラン総人口の約1.4%にすぎず、イラン全体に占める比重はきわめて小さい。工業部門にしても、全体に埋没してシェアは目立たないが、それでも人口に比較すれば比率は高まる。特に、ヤズド所在の繊維関連部門で全国シェアが高いのは、紡績・織物部門である。

表1 繊維・織物工業の地理的分布、2004年⁴⁾

品名		全国	テヘラン州	イスファハン州	ヤズド州
手織絨毯の糸	工場数	341	1	242	12
	生産能力(トン)	71090	3000	29337	2668
	比率(%)	100	4.22	41.27	3.75
機械織絨毯の糸	工場数	164	4	53	38
	生産能力(トン)	244638	2380	66368	33980
	比率(%)	100	0.97	27.13	13.89
織布(worsted)	工場数	71	7	17	13
	生産能力(10 ³ m ²)	112,264	7,580	2,461	18,410
	比率(%)	100	6.75	2.19	16.40
織布(綿)	工場数	1390	15	595	599
	生産能力(10 ³ m ²)	1,594,070	71,898	584,119	494,369
	比率(%)	100	4.51	36.64	31.01
機械織絨毯	工場数	1860	30	1470	45
	生産能力(10 ³ m ²)	310,219	5,476	150,664	16,597
	比率(%)	100	1.77	48.57	5.35
編物(丸編)	工場数	750	131	107	29
	生産能力(トン)	293,652	75,885	17,619	18,154
	比率(%)	100	25.84	6.00	6.18

近年、イランの繊維産業の不況に伴い、この産業からリストラされた労働者が増え続けている。2002年にイランの政府が繊維産業の再建や機械の近代化をはかって、5億米ドルの外貨の導入法律を作りました。さらに、輸出社に対しての援助を行ったり、輸入品の税率法を改正したりなども行っているが、数年たった今も、いまだに、原料購入

の問題や繊維製品の不法輸入問題や中国等から安価製品の問題等がまだイランの繊維産業を苦しめている。さらに、ヨーロッパなどの中国からの繊維製品輸入の規制によって、それらの商品の一部がイランの市場に流れる危険性もあるから、これからはさらに繊維産業の景気が悪化する可能性が高い。

イランでは綿紡績業部門は比較的に多い。大きい綿紡績会社として85社、合わせて200万錘、生産能力は22万トン綿糸である。イランの繊維産業の綿繊維使用量は約年間15~18万トンであるが、イランの綿繊維生産量は約年間12万トンしかありませんので、残りを合成繊維や輸入などから賄っている。国内の綿繊維の1ヘクタールあたりの生産量が低い、繊維性質はとても良い。綿繊維の輸入税率は繊維長によって違うものの、平均繊維長の29ミリ以上の綿繊維の輸入税率は4%にあることに対して29ミリ以下の綿繊維の輸入税率は15%である。したがって、29ミリ以下の繊維から製造可能な商品の価格も高くなり輸入品との競争がさらに困難になっている。従って、輸入品は高品質のものだけではなく低品質のものも増え続ける一方である。例えば、中国からの輸入毛布税率を65%まで上げたのにも変わらずまだ、国内製造毛布より安い。数年前から厳しい状況に置かれているイランの繊維関連会社が毎年増え続けている。ちなみに、厳しい現状の中で繊維製品の生産や輸出がわずかながら増え続けている(図1)。政府が輸

(a) 繊維 & 糸

(b) 織布 & 機械織絨毯

図1 2000~2004年の繊維製品の生産量⁵⁾

出業者を応援するために約 600 万ドル予算を決めたが、対象業者が少なかったから、その中からわずか 45 万米ドルしか支払われなかった。結果的に、2004 年のイランからのアパレルを含む繊維製品輸出額(ペルシャ絨毯を除く)は 3.6 億米ドルしかなかった。輸出先はイラク、アフガニスタン、ゲルギゼスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、ヨーロッパ等である。表 2 及び表 3 は、2003 年度のイランの繊維製品の輸出入例を示している。表 2 から分かるようにペルシャ絨毯の輸出量が目立ちますが、その主な輸出先はアメリカ 24%、ドイツ 23.5%、に続きイタリア、UAE、スイス、フランス、カナダ、レバノンなどである。尚、日本への輸出は全体の約 4.5% である。

表 2 2003 年のイランの繊維製品の輸出⁵⁾

製品名	重量(トン)	価額(米ドル)
織物(綿)	3,663	18,731
ペルシャ絨毯(羊毛)	20,398,455	538,955,892
その他の絨毯	876,165	10,807,788
網レース	13,754	99,913
糸や織物	2,240	41,867

表 3 2003 年のイランの繊維製品の輸入⁵⁾

製品名	重量(トン)	価額(米ドル)
ポリエステル糸(単糸)	400,803	567,109
合成繊維(ポリエステル)	481,145	615,868
合成繊維(アクリル)	14,606,850	23,380,732
織物	12,000	45,693
産業用布	115,701	467,513

4. 繊維教育

イランでは繊維に関する大学は、国立大学は 4 大学及び私立大学 4 大学である。繊維学科が所在する国立大学は、アミルキャビル工業大学、イスファハン工業大学、ヤズド大学、ギラン大学である(表 4)。アミルキャビル工業大学の繊維学部はイランでもっとも古い繊維学部です。この繊維学部は 1957 年にアミルキャビル工業大学設立と同時に

表 4 繊維学部が所属するイランの大学

	学 部	大学院修士	大学院博士	学生数 (人)	教官数 (人)
アミル キャビル 工業大学	繊維技術、繊維 化学&繊維科学、 繊維経営、衣料 とファッション	繊維技術、 繊維化学& 繊維科学、 繊維経営	繊維技術、 繊維化学& 繊維科学	460	31
イスファ ハン 工業大学	繊維技術、繊維 化学&繊維科学、 衣料とファッ ション	繊維技術、 繊維化学& 繊維科学、 繊維経営		300	24
ヤズド 大学	繊維技術、繊維 化学&繊維科学、 衣料とファッ ション	繊維技術、 高分子		260	14
ギラン 大学	繊維化学&繊維			120	10
合計				1,140	79

設立されている。現在、この学部では、31 人の教官が繊維に関するさまざまな分野の教育や研究を行っている。1995 年に繊維学部の新しい建物が 11 階建ての 27000m² の広さでできた。教室の数は 12 室、250 人収容できる amphitheatre 2 館、コンピューター室やさまざまな工場や実験室等が整われている。主な実験室は、染色、プリント及び仕上げ、合成繊維生産、繊維検査、繊維物理、顕微鏡、品質管理、電気基礎、高分子化学、有機化学、基礎化学、紡績、製織、製編などである。毎年約 75 人学部生が繊維学部に入學する。その他に、大学院生などの入學生もいる。すべての入學生はイランの全国大学入學コンクール(日本の大学センター試験にあたる)をパスしなければならない。2005 年度のすべての大学(国立大学及び私立大学)の 180 万人受験者の中、約 90 万人が入學できるようになった。つまり 50 パーセントの受験者が何らかの形で大学に入學することができます。大学や専門の選択は受験者の成績によって決められますが、アミルキャビル工業大学のような理科系国立大学の入學はまだ難しくて競争は激しいことである。

繊維・織物産業に特化したヤズド州やイスファハン州等はイランでも有数の繊維産業の盛んな地域であるのだからこれらの地域の大学にも繊維学部が所在し、繊維関連の教育が行われてる(図 2)。ヤズド州にあるヤズド大学、イスファハン州にあるイスファハン工業大学それからギラン州にあるギラン大学には繊維学部あるいは繊維学科が所在している。その他に私立大学として、ヤズド(Yazd)州、イスファハン(Isfahan)州、テヘラン(Tehran)州、マルキャジ(Markazi)州の、それぞれ、ヤズド・イスラミック・アザード大学、キャシャン・イスラミック・アザード大学、シャレ・レーイ・イスラミック・アザード大学、アラーク・イスラミック・アザード大学には繊維学部あるいは繊維学科が所在している。私立大学のすべてが、イラン革命後に設立されているから、設備や教官数などが国立大学ほどではないが、学生数についてはほぼ国立大学と同数であると

図 2 繊維学部が所属するイランの大学の位置

思われる。

このようにヤズド州やイスファハン州等繊維との関わり
の強い産業構造をしている地域の現状を検討すると、今後の
これらの地域の発展を阻害しうる脆弱さが浮かび上がる。
一方、地域の活性を目指して地域の大学と地域の企業が共
同で行政と組んで、繊維産業が抱えている近代化・機械化、
あるいは輸出化の問題の解決に向けて行動をすれば、イラン
の繊維産業に競争力を付けるのに十分可能性があると筆者
は思っている。

参考文献

- 1) CIA - The World Factbook - Iran, <http://www.odci.gov/cia/publications/factbook>.
- 2) Iran Management And Planning Organization, <http://www.mporg.ir/gozaresh/82/index.htm>.
- 3) Opec Annual Statistical Bulletin(2004), <http://www.opec.org>.
- 4) Ministry of Industry and Mine, System Industrial Permission, CD.
- 5) Statistical Center of Iran, <http://www.sci.org.ir/persia>.

51st FRP CON-EX 2006 講演会 in 神戸

主 催：(社)強化プラスチック協会
協 賛：(社)繊維学会ほか
日 時：平成 18 年 9 月 28 日(木)～29 日(金) 9:00～17:00
会 場：神戸国際会議場 TEL:078-302-5200
神戸市中央区港島中町 6-9-1
問合先：(社)強化プラスチック協会 51st FRP CON-EX
2006 係 アドレス <hdqtr@jrps.or.jp>
〒101-0021 東京都千代田区外神田 6-2-8 日誠
ビル 3 階 TEL:03-5812-3370 FAX:03-5812-
3375 <http://www.jrps.or.jp>

東大・法学政治学研究科 中里 実
15:00 <話題提供>
森林管理の新たなしくみ
岩手大農 岡田 秀二
人と樹木のコミュニケーションネットワーク
東農大・地域環境科学部 進士五十八
社会における木づかいの促進
東大農学生命科学研究科 安藤 直人
16:30 <パネルディスカッション>
岡田、進士、安藤
コーディネーター：
東農大地域環境科学部 太田 猛彦
17:30 閉会

オルガテクノ(ORGATECHNO)2006 — 有機テクノロジー展/国際会議 —

主 催：有機テクノロジー実行委員会
委員長 松重和美(京都大副学長 国際イノベー
ション機構(IIO)機構長)
協 賛：(社)繊維学会ほか
日 時：平成 18 年 7 月 25 日(火)～27 日(木)
会 場：パシフィコ横浜
問合先：〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-17
赤坂第一ビル 10F
TEL:03-5772-1321 FAX:03-5772-1324
日本イージェイケイ(株) 田平 利恵
tahira@ejk-japan.co.jp

森林・木材・環境アカデミーシンポジウム 元気の出る森林と木づかいの環境

— 持続的な森づくりと木づかいを促す仕組みの構築に向けて —

主 催：森林・木材・環境アカデミー
日 時：平成 18 年 6 月 30 日(金) 13:30～17:30
会 場：東京大学弥生講堂
参加費：無料
プログラム：
13:30 <挨拶> 林野庁長官 川村秀三郎
13:40 <講演> 森林環境税の展開

第 28 回公開技術講演会

主 催：日本技術士会近畿支部 繊維部会
共 催：日本繊維技術士センター(JTCC)
日 時：平成 18 年 7 月 28 日(金) 13:30～16:30
会 場：大阪産業創造館 6 階会議室 B
大阪市中央区本町 1-4-5(地下鉄 堺筋線、中央
線堺筋本町下車①②③本町通東へ 5 分)
13:30～ 挨拶と講師紹介
大市大院経営学研究科 富澤 修身
13:35～ 格差消費と国内回帰のなかの日本経済と繊維
産業
第 1 部 日本の生活者 家計消費支出と格差社会論を
整理検討しつつ、現在の消費者像を浮き立た
せる。
第 2 部 世界の中の日本の経済 景気回復と国内回帰
の中、日本の経済、産業、企業について諸特
徴を論じる。
第 3 部 日本の繊維産業と繊維企業のいま 貿易、海
外投資、ブランド、財務等を検討して、いま
を見つめ、近未来を見通したい。
必要に応じて、グローバル競争、マーケティ
ングやブランド構築、中国市場、生活価値観
の趨勢についても言及したい。
問合先：JTCC 事務所 〒564-0062 吹田市垂水町 3 丁目
7-18 P&M ビル 2F
TEL:06-6339-1237 FAX:06-6339-0337